

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年5月30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891700049		
法人名	株式会社 メディカルアシスト		
事業所名	グループホーム たんぽぽ	ユニット名	Aユニット
所在地	〒300-1525 茨城県取手市桜が丘1-17-13		
自己評価作成日	平成23年9月17日	評価結果 市町村受理日	平成24年5月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0891700049&SCD=320&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年11月11日	評価確定日	平成24年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当事業所は地域との交流を大切にしている。 近隣の小学校へは毎年訪問して認知症についての理解や介護の仕事についての講義を行っている。 更に生徒が当事業所に来所して認知症について理解してもらえるようにしている。 その他、福祉体験を希望している高校生などの受け入れをして、職員と共に実際の業務を体験してもらっている。 地域行事にも積極的に参加しており、運営推進会議を通し桜が丘自治会が主催している自主防災会の「防災・安心台帳」に加入している。 災害時には地域の方々と協力が出来る体制を整えている。 また、桜が丘団地内には沢山</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>近隣の小学校や中学校と連携して事業所職員が毎年学校に出向き、認知症や介護の仕事について講義を行うなど、地域との交流に力を入れている。 月1回広報誌を発行し、家族等や地域住民などに配布して事業所を知ってもらうとともに、納涼祭やクリスマス会などの季節に応じた行事に参加してもらい、利用者や家族等、地域住民が交流できるように努めている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に全職員で基本理念を読み上げ、業務開始前に意識付けをしている。又、誰でもが見やすい場所へ掲示して確認できるようにしている。	法人全体の理念を、朝礼時に全職員で唱和して共有を図り実践に努めているが、事業所独自の理念を作成するまでには至っていない。	管理者はユニット毎の理念を作りたいと考えているので、全職員で話し合い、その実現を期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し、除草作業や夏祭りなどの行事へ参加している。又、自治会には（自主防災会）が発足されているため、利用者の全員が加入し、災害時などには協力が得られるようにしている。自治会主催の災害時の訓練にも参加している。	自治会に加入し、清掃活動や盆踊り、カラオケなどの行事に利用者と職員が一緒に参加して交流している。 月1回広報誌を発行し、事業所の内容や行事を紹介するなど地域住民への理解を図り、行事への参加を促して交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校へ出向き認知症についての講義を行ったり、実際にホームへと来ていただき、利用者様と触れ合う時間を持ち、理解して頂けるようにしている。また、高校生が福祉について理解をしたいとの事で体験に来られている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活状況や行事の報告をし、委員の方々には、実際に避難訓練などの行事へ参加していただき、改善点などを伺い、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は地域包括支援センター職員や家族等、民生委員、自治会長、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用状況や行事報告をするほか、地域包括支援センター職員から報告を受けたり意見交換を行い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。 地域包括支援センター職員は年3回の参加である。	地域包括支援センター職員または市職員においては、福祉サービス向上のため全ての運営推進会議に参加してもらうことが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	取手市地域密着型サービス連絡会で出た疑問点などを市の職員へ質問したり、意見交換をしている。また、不明な点などがある場合にはその都度、市の職員へ相談している。	運営推進会議や市の地域密着型サービス連絡会議に市担当者が参加し情報交換をしている。 生活保護を受給している利用者があり、市福祉課と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所は、目の前が公道で車の通りが激しく危険なため、家族へ事情を説明し、利用者様の安全のため施錠をしていますが、希望時にはいつでも開錠している。また全職員がカンファレンスなどで理解を深め拘束の無いケアに取り組んでいる。	全職員は定期的な会議の中で、身体拘束の内容とその弊害について学んでいる。 玄関前は公道で危険なため、家族等の同意を得て玄関を施錠している。 職員は利用者一人ひとりの行動パターンを把握し、時間帯に応じて見守りの体制を厚くすることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修を開催し、虐待についての知識を深め、常に注意を払い虐待や身体拘束防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政担当者から情報を頂き、必要である方は関係機関と話し合いの上活用できるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、パンフレット、重要事項説明書を用いてわかりやすく説明をし、理解と納得をいただいて契約をしている。不安な点や質問などはいつでも受け付けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の窓口を設け、重要事項説明書にて説明をしている。又、家族交流会や面会時などのご家族との話し合いの中で意見を聞き運営に反映している。	職員は日常の問いかけや会話の中で利用者の希望を汲み取り、運営に反映させるように努めている。 管理者や職員は、家族等の意見や要望を家族交流会や事業所の行事で聴くように努めているが、感謝の言葉は聞かれるものの意見等を汲みあげるまでには至っていない。 重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。	家族交流会などの機会を利用して無記名のアンケートを実施するなど、利用者や家族等の思いを汲み上げるように工夫することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションを通して職員の意見を聞き取り、毎月行っているカンファレンスの中で意見や提案ができる場を設け意見交換をしている。	管理者は職員との日々のコミュニケーションを通して、意見を言い易い関係を築いているほか月1回会議を開催し、職員が直接意見を出せる機会を設けるとともに、出た意見等を運営に反映させている。 代表者は年2回全体会議に参加して職員の意見や要望等を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に代表者を交えて内部研修を行い、意見の交換を行っている。又、職員個々が定期的に自己評価を実施して日々の業務を見つめ直す機会を設けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を開催し、職員知識を高めている。 外部の研修は職員のレベルに合わせて参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	取手市地域密着型サービス連絡会を開催し、他のグループホームや行政との情報交換の場を作り、サービスの質の向上に努めている。 又、連絡会の中で事例検討などの勉強会を開催して交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と会う機会を設け、これまでの状況を聴き、本人の思いや要望などを聞き取るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人と会う機会を設けた際にご家族の方にも同席してもらいこれまでの状況を聴き、不安な思いや要望などを聴き取るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時に家族の思いや状況を確認し、グループホーム以外のサービスへ繋げられるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯など利用者ができることは本人と協力をして行い、お互いが支えあえる環境作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会を通してご家族とのコミュニケーションを密に図っている。 ご本人の状況を理解してもらい、共に本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会時に外出や外泊をするなどして馴染みの場所へ出かけられるように家族と協力をしている。 また、入居の際に馴染みの家具など使い慣れた物を持ち込んでいる。	職員は入居時の面接やフェイスシートを活用したり、利用者との日常会話や家族等の話から、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を把握するとともに、その関係が途切れないよう支援をしている。 職員は利用者が妹宅に行けるように付き添ったり、一時帰宅させるなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、席順を見直している。また、必要に応じてテーブルの配置を換えたりしている。 利用者一人ひとりが役割を持ち、利用者同士が協力して支えあっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の気持ちに配慮しながら家族との関係を継続し、必要があれば相談に応じ支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしい暮らしが続けられるように日々の関わりの中で声掛け把握に努めている。意思疎通の困難な利用者には、表情などから推測したりして思いを見逃さないように日常の観察を行っている。	利用者がその人らしい暮らしを続けられるように、話しかけや声かけを通して希望や意向を聴いたり、家族等から情報を得ている。 意思表示が困難な利用者の場合は、日々の生活の中での表情から思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴についての資料や本人の話、家族からの情報などにより把握するようにしている。 今後も必要な情報を伺う際には、失礼の無いよう家族や知人、本人自身に聞くようにする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕に申し送りを行い、日中と夜間帯の一人ひとりの状態を報告し、生活リズム、心身の状態を全職員が把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人ひとりに担当してもらいモニタリングを行っている。介護計画を作成する際に役に立てている。また、家族の意見や本人の状態が変化した際には随時見直しを行っている。	利用者一人ひとりに担当職員が付き、その職員が毎月モニタリングを実施するとともに、計画作成担当者と利用者毎の担当職員で意見交換を行い、利用者や家族等の意見や要望を取り入れた介護計画を6ヶ月毎に作成している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直して行く。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子(食事・水分量・排泄状況・精神状況・行動・体調の変化等)を個別にケース記録として記入しており、毎日、朝、夕の申し送り時に報告し、職員が把握に努め情報の共有を行っている。この情報を基にケアカンファレンスを開催し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化やニーズに合わせてケアプランの見直しを行っている。 又、同法人のデイサービスと合同で納涼祭を企画、実行するなどして密に交流を図っている。その他、自治会より招待をされて夏祭りなどの行事へも積極的に参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのイベントや近隣への散歩などを行い外出する機会を多く設けるようにしている。また、一人ひとりが安心・安全に暮らしを楽しむ事ができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に受診していた医療機関に継続して受診が出来るように支援している。又、家族の対応が可能な方には家族の方に通院の対応を行ってもらっている。	利用前のかかりつけ医への受診は原則家族等が付き添うことになっており、職員は利用者の状態を家族等に伝え、適切な受診ができるように支援をしている。 月2回看護師が来訪しているほか、月1回協力医療機関の医師による訪問診療が受診できるように支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や普段と様子が違うと思った際には、すぐに医療機関の看護師と連絡を取り相談や助言を頂ける体制を取り支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時やその後の面会時に情報交換を行っている。職員へも随時経過を報告して情報の共有と退院後の対応の変更などの意識付に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書により、重度化した際の対応方針を説明している。状態の変化などは家族へ報告し、家族や主治医と相談して近隣の病院を受診したり、主治医が対応できるようにしている。	重要事項説明書に重度化対応指針が明記されており、契約時に利用者や家族等に説明し同意を得ているが、看取りに関する指針を明記するまでには至っていない。 重度化や終末期に向けた事業所の方針を職員や関係者で研修等を実施し、共有するまでには至っていない。	重度化や終末期に向けた支援について、事業所がどこまでできるのかを全職員で話し合っ方針を決め、職員や家族等、医療機関関係者と連携を図ったり、研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を通して応急手当や初期対応の訓練を行い、緊急時のマニュアルの整備を行っている。今後も定期的に勉強会を開催して冷静に対応が出来るような体制を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、消防設備や警報設備などの定期検査を実施している。また、地域の自主防災訓練に参加し災害時に備えている。運営推進会議で地域の災害対策の在り方について話し合い、地域での協力体制や近隣住民の協力が得られている。	年2回避難訓練を実施している。 地域の自主防災訓練に参加し、災害時には地域の協力や近隣住民の協力が得られる体制になっているが、事業所の避難訓練に地域住民が参加するまでには至っていない。 夜間緊急連絡網が掲示されている。 避難訓練の記録を作成し課題を話し合い、職員で共有している。 少量の食糧と飲料水2日分を備蓄している。	運営推進会議や区長を通して事業所の避難訓練に近隣住民の参加を呼びかけることを期待する。 災害時に備えて十分な量の食糧等を備蓄することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念で「プライバシーの尊厳」を掲げ、排泄などの声掛けは小声でしたり、居室へ入る際にはノックをするなど全職員に徹底している。また、個人情報の取り扱いにも十分注意している。	全職員は利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや声かけをするように普段から心がけている。 個人情報の書類は事務室に保管し、薬や個人ファイルなどの名前が分からないように工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活のなかで本人の希望や思いを察し、自己決定が出来るような言葉かけや環境作りなど、一人ひとりの能力に合せた声掛けを行い自分の意思が反映させられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その都度伺いながら本人のペースを大切にしている。また、日々を楽しく過ごすことが出来るよう声掛けや場面を工夫し、自分らしさを引き出せるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にカットボランティアに在所して頂き、本人や家族の希望により散髪を行っている。整容は、個人の好みを尊重し一緒に服を選んだりして日々支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のペースで無理のない程度に下膳や盛り付けなどの手伝いをしてもらえるように支援している。また、自分のペースで食事を摂ることが出来る雰囲気作りに努めている。	昼食と夕食の食材は宅配業者を利用し、カロリー計算された食事を提供している。 朝食は職員が事務所の厨房で利用者の好みに合わせて作っている。 利用者はできる範囲でテーブル拭きや下膳、おやつ作りなどを行っている。 年1回利用者3人1組に職員2名が付き添い、寿司屋やファミリーレストランで外食をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれたメニューを提供している。一人ひとりの状態に合わせて食事形態を変えて提供している。また、一人ひとりの摂取量を把握する為、食事量・水分摂取量を個別に記録し夜間帯も状態に合わせて水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアを行い、口腔内の清潔を維持し感染予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握して、トイレ誘導や声掛けの参考にしている。 また、失敗してしまってもさりげなく対応するように心がけている。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々の排便の有無を毎日確認して便秘傾向が見られる際には運動や乳製品を取り入れて自然な排泄が出来るように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望を基にした表を作成して入浴をしている。また、当日の体調や希望に合わせて入浴が出来るように支援している。 季節感を味わっていただくために菖蒲湯や柚子湯などを楽しんでいただいている。	風呂は毎日沸かしており、入浴予定表を基に利用者が週3回以上入浴ができるように支援をしている。 入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、声かけのうまい職員に替えるなどの工夫をし、入浴ができるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の身体状況に合わせて居室やソファなどで休息できるようにしている。 また、室温などにも気を配り、快適に過ごせるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋をいつでも確認できるようにファイルしてある。薬の内容の変更があった際には、申し送りノートに記載し、更に口頭でも申し送りをしている。 また、誤薬等が無いよう職員が名前を確認して手渡しをして服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動や戸外の作業など、各自の能力に合った役割を持っていただいている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や身体状況に合わせた散歩など日常的な外出支援を行っている。また、季節行事としてお花見や納涼祭など家族と同伴できる外出支援を行っている。 その他、地域行事にも積極的に参加している。	利用者は天気の良い日には事業所周辺を散歩している。 庭にはテーブルや椅子を置き、いつでも外気浴が楽しめるように支援をしている。 家族等の協力を得て花見やブルーベリー摘み、地域の祭りなどに出かけられるように支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて支援している。基本的には施設側で管理しているが希望や状況に応じてお金を所有し、必要な物を買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を使用したいとの希望がある際には、希望に添えるよう支援している。 また、家族交流会の案内を直筆でコメントを添えて送る等の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、居心地が良く生活が出来るよう温度管理や環境整備に配慮している。また、季節を感じられる様な掲示物・カレンダーに装飾の工夫を凝らし玄関先には季節の花を植えるなどしている。	広々とした居間は明るく、グランドピアノが置いてあり、利用者がゆったりと寛げる居心地のよい空間となっている。 壁には職員がキルトで作った手作りの大きなカレンダーを飾り、暖かさを演出している。 大きな窓の向こう側にウッドデッキを設置し、四季の草花を育てて季節感を取り入れている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状態や状況に合わせて、テーブルやソファの配置を換えたりして過ごしやすい環境作りをしている。また、ウッドデッキにはテーブルとベンチが設置されているため、外へ出て気分転換が出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分らしく生活出来るよう長年愛用してきた物や家族との思い出の写真などを持ち込んだりして居心地のよい空間作りを行っている。	利用者は居室に使い慣れた物品や馴染みの物品を持ち込んでいるほか、家族等の写真を飾ったり仏壇を置いたりして居心地よく暮らせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差などは無い作りとなっており、安全に生活してもらえる様になっている。各居室には表札を付けて自分の居室が分かるようにしている。ベット柵や物の配置を本人の状態に合わせて変更をしたりして安全に生活出来る環境作りをしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームたんぽぽ

作成日 平成24年5月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	地域包括支援センター職員または市職員ににおいては、福祉サービス向上のため全ての運営推進会議に参加してもらうことが望まれる。	開催毎に参加してもらえる様に働きかけていく	市からの監査が行われた際に外部評価時に市の職員が参加されていない事を指摘されたと説明しており、解決方向に向かっている。	実施している
2	1	管理者はユニット毎の理念を作りたいと考えているので、全職員で話し合い、その実現を期待する。	各ユニットに適した理念を掲げる	各ユニットに適した理念を作成し、レクリエーションや外出等の行事の充実を図る。	2ヶ月
3	10	家族交流会などの機会を利用して無記名のアンケートを実施するなど、利用者や家族の思いを汲み上げるように工夫することを期待する。	12月の交流会でアンケートを実施する	12月に家族交流会の開催を予定している。その際にアンケートを配布して記入して頂く準備をしている。	7ヶ月後に実施予定
4	35	運営推進会議や区長を通して事業所の避難訓練に近隣住民の参加を呼び掛ける事を期待する。災害時に備えて十分な量の食糧等を備蓄する事を期待する。	近隣住民の方々に避難訓練に参加してもらえること	備蓄については、まだ十分と言える量ではないが食糧や水などの備蓄品の量を徐々に増やしている。避難訓練実施については、開催日を事前に区長又は自治会長へ伝え近隣住民の方々に参加して頂けるよう働きかける	今年度中
5	33	重度化や終末期に向けた支援について、事業所がどこまで出来るのかを全職員で話し合っ方針を決め、職員や家族等、医療機関と連携を図ったり、研修実施を期待する。	看取りケアに関する知識の取り入れ	看取りについての勉強会を開催して、事業所内で対応可能な事、可能でない事を職員全体で検討する。家族や医療機関との連携体制は整えている。	今年度中

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。